２．方法

（１）病弱教育担当教員間における病気の子どもの教育情報共有・発信システムの構築

病弱教育担当教員による教育情報の蓄積，共有，発信を行うためのシステム構築を，以下の二つの手順で取り組んだ。まず支援冊子「病気の児童生徒への特別支援教育～病気の子どもの理解のために～」の編集システムを応用し①，②を行った。

①WEB を利活用した特別支援学校（病弱）のセンター的機能としての情報共有・発信システム構築

全病連傘下の各地区（北海道・東北・関東・近畿東海北陸・中四国・九州）病弱身体虚弱教育研究連盟（以下，地区病連）から，ICT 推進委員（17 名）を選出し，年１回の委員全体による研究協議と WEB 上で継続的，継時的会議を行い，WEB による情報共有・発信の方針を固めた上で，ICT 推進委員が，地区病連ごとに，独自の情報共有・発信様式について検討した。

②特別支援学校（病弱），病弱・身体虚弱特別支援学級で行われている指導事例や領域・教科の学習指導案を蓄積し共有するためのシステム構築

各学校で指名された ICT 担当学校代表（78 名）から，研究授業等における学習指導案を提供してもらい，WEB 上に蓄積し，病弱・身体虚弱教育における学習指導案データベースを構築する。

（２）精神疾患等の心の病気のある児童生徒の教育情報を共有するための事例フォーマット（試案）の検討

本研究も，支援冊子編集システムを応用し，以下の①と②の二段階で取り組んだ。

①　事例フォーマット検討のための組織作りおよびシステム作り

本研究を実施するに当たり，全病連の中で組織されている４つの研究推進委員会（「筋ジス研究推進委員会」，「慢性疾患研究推進委員会」，「脳性まひ等研究推進委員会」，「心身症等研究推進委員会」）の中から，「心身症等研究推進委員会」と協働して，事例フォーマットを検討していく母体を起ち上げ，本研究のメンバーとした。

「心身症等研究推進委員会」全体での作業は，全病連の全国大会開催に合わせた協議会も含めて，年２回開催することとした。それとは別に，ICT を活用したシステムを構築することで，随時，事例に関わる協議と検討が可能となるように研究環境を整備した。

各研究メンバーは「精神疾患等の心の病気のある児童生徒の指導・支援事例」をこのシステム内への収集と蓄積を進めて，事例フォーマットの検討を進めた。また各メンバー間では，随時，必要に応じて本研究所に置かれたテレビ会議システムを活用して，リアルタイムに個別の事例について協議や検討を繰り返し行い，研究を推進した。

② 病弱教育担当教員による情報共有・発信が可能となるための「事例フォーマット」の構築

上記の研究体制およびICTを活用したシステムを整備した後，事例フォーマットの検討を行った。

検討に際しては，上記「心身症等研究推進委員会」の研究メンバーの中から，関東甲信越地区で児童思春期精神科の入院施設がある病院に隣接した特別支援学校（病弱）でコアチームを作り，コアメンバーを中心に検討を重ねた。コアメンバーは，各校推進委員より収集および蓄積した実践事例を基に，精神疾患等の心の病気のある児童生徒の教育支援のための事例集作製に必要となる『事例提示・事例記述の方法』（事例フォーマット）を検討した。

それぞれの研究の詳細は，第３章，第４章に述べる。